

# DTPデータの二次利用について

タブレットやスマートフォンの普及により、  
Webや電子書籍など紙以外の媒体での情報発信方法が一般化しています。  
今後のクロスメディア展開に向けたDTPデータの二次利用についてご紹介します。

## ■クロスメディア展開に向けて

現代の情報発信方法は、紙媒体・Web・電子書籍など多岐に渡ります。同じ内容のコンテンツのクロスメディア化をいかに効率良く図っていくか、それが出版社など多くのコンテンツホルダーにとって共通の課題になっているのではないかと思います。そういった課題を解決する一つの手段としてCMS（コンテンツマネジメントシステム）があります。しかし、CMSを導入するためには、既存のコンテンツのデータベース化が必須となります。また、コスト面を考えても気軽に導入できるものではありません。

当社が主業務として制作しているDTPデータは、「写真」「図版」「テキスト」など様々な素材がデジタルデータとして取り込まれています。今後、クロスメディア展開を図っていくうえでは、これらのデータをいかにプレーンな形で残しておくかが、その後のデータベース化において重要になってきます。そのため、当社ではお客様のニーズに合わせた形式で各種データをDTPデータから抽出・加工するサービスを行っています。

## ■DTPデータの二次利用方法

DTPデータの二次利用には、以下のようなものが挙げられます。

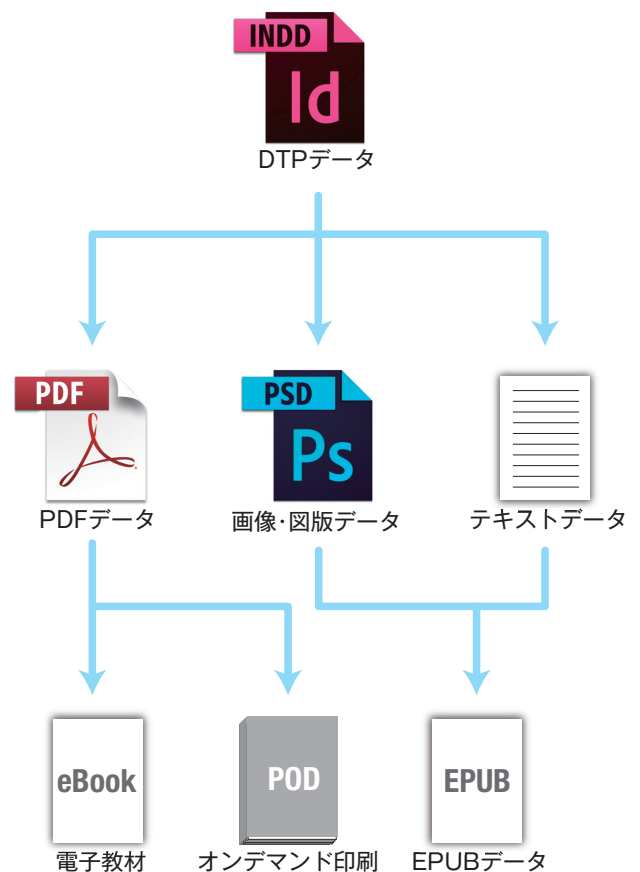
### 電子書籍（EPUB）／電子教材への転用

DTPデータから電子書籍や電子教材を制作するための確固たるフローは、今現在も確立されていません。InDesignの機能を使えば、DTPデータからEPUBを書き出すことは可能です。しかし、実際にはこの方法で作成したEPUBはその後に調整が必要です。文字が中心の書籍であれば、微調整で済むこともありますが、

図や写真が挿入されているような書籍の場合は、あらかじめ各要素を抽出してから専用のアプリケーションを使用してEPUBコーディングを行うほうが効率的です。

電子教材の場合は、PDFをソースデータとして使用することが多いため、校了後のPDFを保有しておくほうが良いでしょう。

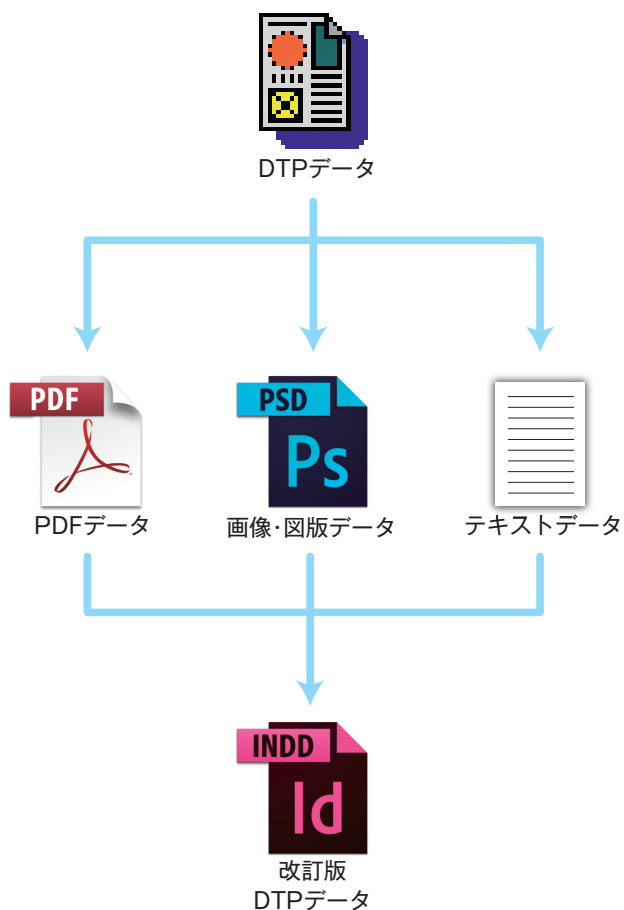
また、書籍を一部から制作できるオンデマンド印刷でもPDFデータが使われます。当社ではDTPデータから Amazon POD（プリント・オン・デマンド）に準拠したPDFを作成することも可能です。



## 古いデータから改訂用の素材抽出

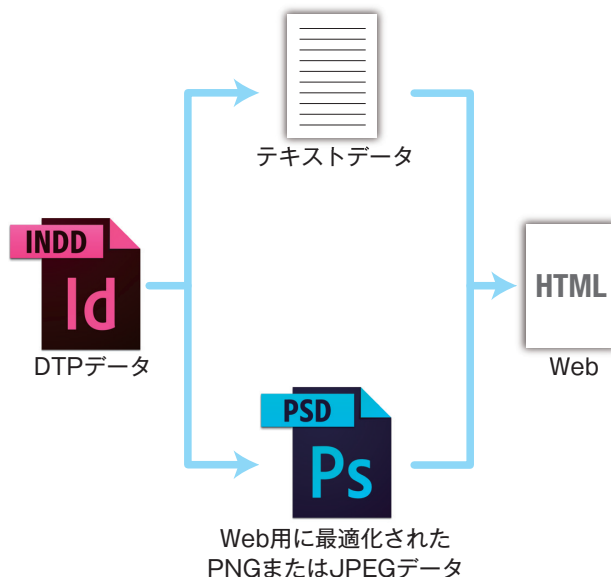
OS9環境のQuarkXPress（以下QX）データは依然多く存在しています。しかし、多くの印刷会社ではすでにその対応を取りやめています。旧版からの微細な改訂であれば、QXデータをInDesignデータにコンバートするという方法も考えられます。しかし、当社では修正箇所が多い場合は、データの信頼性やコスト面を考慮し、新規にテキストデータと画像・図版類を入稿いただくことをお勧めしています。その際には、QXデータからテキストや画像・図版データを抽出してお渡します。そのデータを編集していただき再入稿していただきます。

また、すぐに改訂の予定はないが、いずれそういった必要が出てくる場合には、QXデータをPDF化して保有することもひとつの手法です。テキストや画像が抽出可能なPDFにしておくことで、改訂が必要になった際にそのPDFからデータを簡単に取り出すことが可能となります。



## Webサイトへの転用

紙媒体の内容をそのままWebサイトで展開するといった例も少なくありません。その際には、プレーンテキストと、Web用に最適化したPNGもしくはJPEG形式の画像データを抽出しておく便利です。



## コンテンツDB作成用

先に述べたように、現在の出版業界では保有しているコンテンツをいかにデータベース化するかという点に注目が集まっています。DB化するためには、まずはそれらのコンテンツをDBが読み込める形式に落とし込む必要があります。その最も代表的なものは、Excelデータです。当社ではDTPデータをDBへ橋渡しをするためのExcelデータ変換を行っております。



今回ここでご紹介したのはあくまで一例です。お客様の用途に合わせて、DTPデータをどのように二次利用するのがベストか、またあらかじめ二次利用が決まっている場合はどのようにDTPデータを作成したらよいか、ご提案させていただきます。当社担当営業までお気軽にお問い合わせください。